

6. 電子部品・半導体

トピック：
円高影響・メモリ市況悪化により市場縮小

電子部品市場動向：
スマートフォンの需要減速と円高影響が寄与し市場はマイナス成長

半導体市場動向：
主要製品の需要伸び悩み、メモリ市況悪化で市場はマイナス成長

国内メーカー業績：
2015年4～12月期は全体では増収増益
新たな事業領域の強化・新規参入が活発

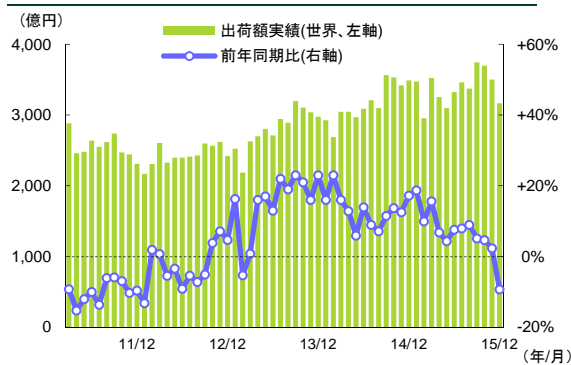
日系電子部品メーカーの売上高は、円高影響を受け2015年12月以降は前年比マイナスに転じています。また半導体では、メモリメーカーの増産投資や微細化/3D化推進によって供給過剰となり市況悪化が加速、市場規模は6月以降縮小に転じています。

電子部品市場は、主力のスマートフォン向けでは端末の高機能化に伴い1台当たりの部品搭載点数が増加傾向にあるものの、スマートフォンの普及率が世界的に高まるなかで出荷台数は頭打ちになりつつあるうえ、円高影響も大きく、市場規模(日系メーカーの売上高)は12月以降前年比マイナスに転じています。今後は、自動車の更なる電装化進展やIoT普及(注)による電子部品需要の増加が期待されますが、需要の新興国シフトや最終製品メーカー間の競合激化に伴う一段の価格低下もあり、為替次第では当面低調な状態が続くことが懸念されます。(注) Internet of Thingsの略称で、生産設備や自動車など様々なモノをインターネットにつなぎ、生産・物流効率化等の付加価値を創出する動き。通信用電子部品や、センサー、マイコンなど幅広い電子部品・半導体の需要増が期待されている。

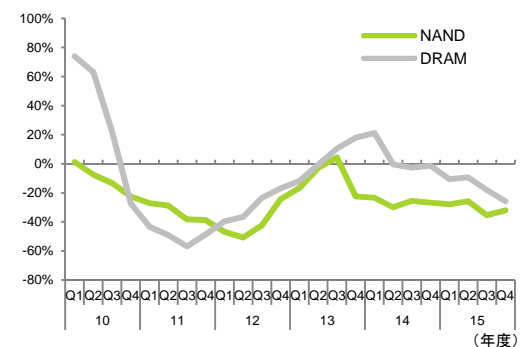
また半導体市場は、主力製品の需要が伸び悩むなか、増産投資等により需給環境が悪化しているメモリ市況の悪化もあり、2015年6月以降前年割れとなっています。

国内メーカーの15年4～12月期の業績は上期の円安影響もあり全体として増収増益を維持していますが、主要販売先の動向や成長分野への取組の巧拙等から各社ごとに二極化傾向にあります。こうしたなか、自動車をはじめ、スマートフォン分野以外の新たな事業領域の強化・新規参入を目的とした提携・M&Aの事例が多く見られます。

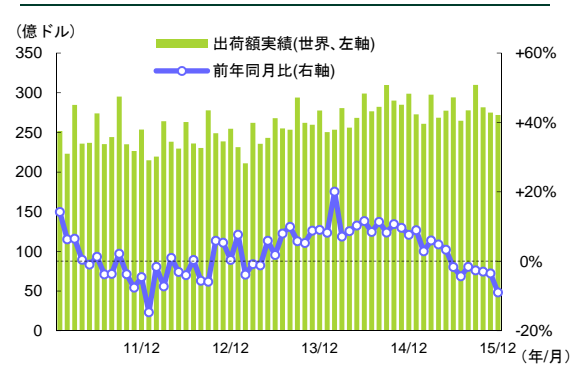
電子部品市場動向(月次)



メモリ市況の四半期前年比推移



半導体市場動向(月次)



主要企業の合算業績推移

